

平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

当園ではこの度、平成29年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価、保護者アンケートを実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

身体も心ものびのびと過ごせる、情操と知育を総合させた教育を目指しています。
きちんとした価値観やモラル心を身につけること。それが心身を健やかに成長させ、子どもの未来を創る原動力となります。

保育をする上では、「徳育、知育、体育、国際化（英語教育）」の4つの理念を大切にし、その中で息づく「こころ」を育てる教育を実践しております。

きちんとしたモラルの心を身につけ、親孝行で将来社会の役に立つ人として育てていくよう、教諭、講師、職員で力をあわせ、お子様たちの保育をすすめてまいります。

II. 今年度の重点目標

●教職員の資質向上 ●安全管理体制の充実 ●保護者対応

III. 自己評価項目と取り組み状況

自己評価項目		取り組み内容	
1	教職員の資質向上	C	年間行事を経験するなかで、友達同士の関わりや言葉の発達等から子どもたちに成長が見られた。子どもたちが自ら考えるような言葉のかけ方を意識して行い、ケガをした際子どもたち同士で励ましあう姿が見られた。研修受講した先生から内容報告してもらい各職員間で共有し、新たな教材を取り入れて保育に活かした。学年間での話し合いに加えて、他学年間での意見交換をさらに活発に行っていく必要がある。他園の取り組みにも関心を持ち、小学校との連携を密にとる等情報を取り入れる場を設けていく。
2	教職員間の連携強化	A	ノートに記録として残すことで、伝達漏れが少なくなり改善が見られた。終礼時にはケガや流行している病気の報告をしあい、出席できなかった人もノートを見返すことで共通理解ができていく。ノートの導入によって、情報共有がさらにスムーズに行えるようになった実感がある。園の予定やその日にあった事故やケガについて、職員全員で共有するために報告しあっている。チーフ会では問題点や改善すべき点を中心に話し合いを行った。他の先生と意見を交換し前年度の内容を教えあい、入念な準備の上で取り組むことができてきた。

平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

自己評価項目		取組み内容	
3	安全管理体制の充実	避難訓練の回数やその方法・設定について再度検討する。	B 今年度から地震及び火災の訓練に加えて不審者の対応訓練を導入し、対応方法について共通認識を持つことができた。これにより子どもたちの中にも危険意識や防犯意識が芽生えてきた様子が伺えた。子どもたちの防災意識を高めるために、子どもたちが分かりやすい表示を貼る等取組みに工夫を行った。今後は学期に1回ではなく頻度を増やす、またいつも訓練実施時間が同じなので、場所や時間を変更していつ起こるか分からない状況で対応ができるように引き続き準備していきたい。
		子どもたちが安全に遊具を利用できる環境を整えるために、遊具の確認を定例化して行う。	B 子どもたちが危険な遊具の使い方をしていないか見回りを行っている。子どもたちに遊具の正しい使い方を再度丁寧に伝えていきたい。安全な遊具使用のために子どもたちの登園前に担当制で遊具点検を行い、事故の未然防止につながっている。遊具だけでなく中には椅子等も老朽化しているものが見受けられ、破損箇所や異変があればすぐに園長に報告し、業者に連絡する等迅速に対応できている。何か異変を感じた時はすぐに教職員に伝えるように、子どもたちへの声掛けを続けていく。
4	園全体の発展	園全体の発展につなげるため、保護者アンケートの集約意見を教職員全体で考察する。	A 保護者アンケートを職員全体で振り返り考察し、保護者の声を貴重な意見として受け止めるように努めている。保護者の意向等を汲み取り、保護者が何を思いどんな意見であるかについて、考察する時間をとり共有できたと思う。また、実際に改善されたという良い声もある一方、結果によって不十分なところは意識して継続取組みを行い、意見集約することで保護者の声に耳を傾けていきたい。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	研修から学んだ知識やスキルを他の学年の先生とも分かち合い、日常保育へ活かしていく。
2	教職員間の連携強化	朝礼・終礼及び会議での決定事項の伝達もれをなくし、全教職員で共有のうえ伝えあう。
3	安全管理体制の充実	訓練実施の頻度と時間帯を見直し、様々な状況を想定して取り入れていく。
4	安全管理体制の充実	子どもたちが安全に園生活を送るために、遊具をはじめ備品類の確認を定例化して行う。
5	園全体の発展	園全体の発展に向けて、保護者アンケートの集約意見を教職員全員で考察する。

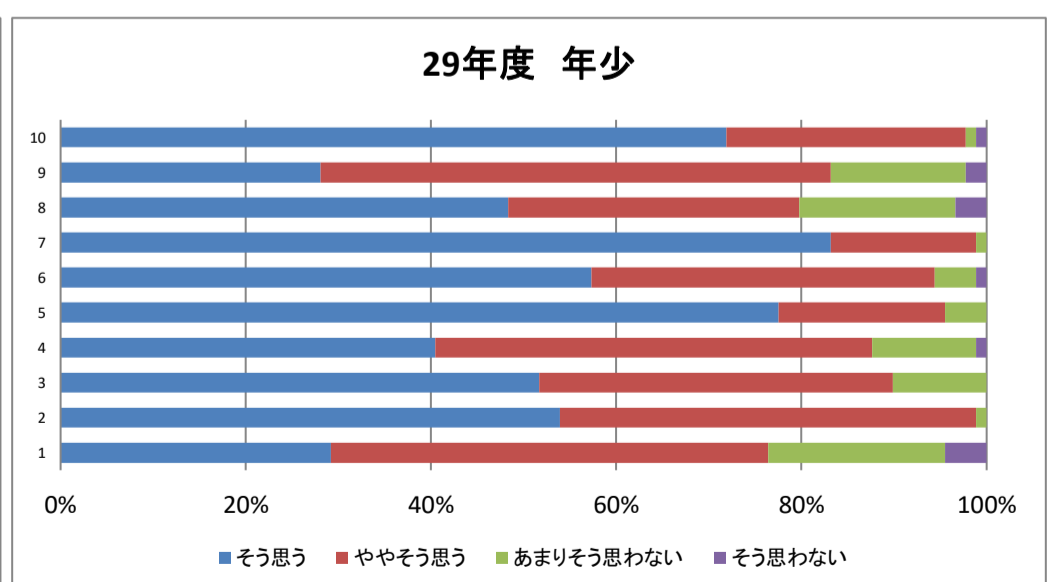
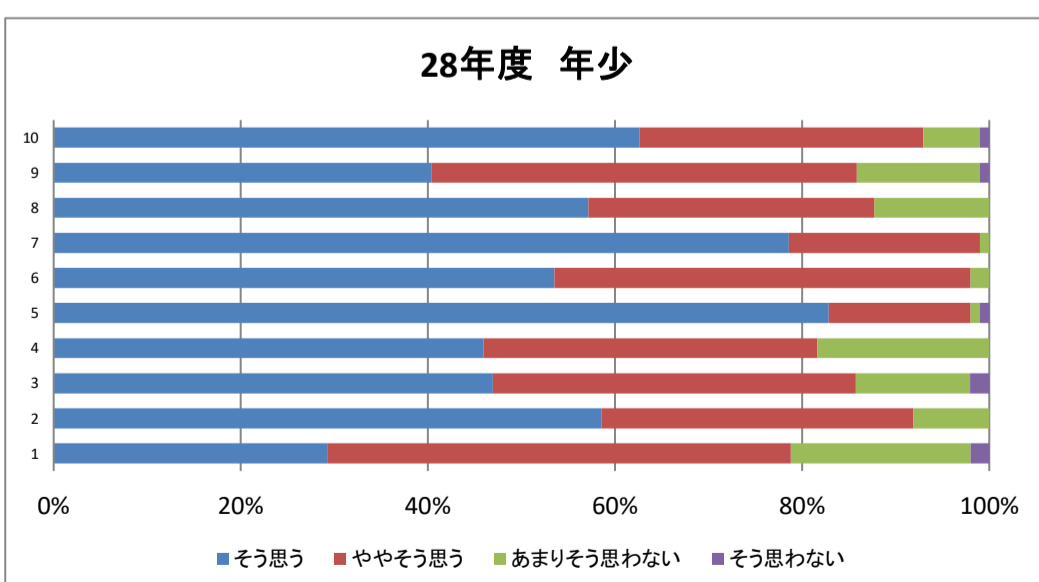
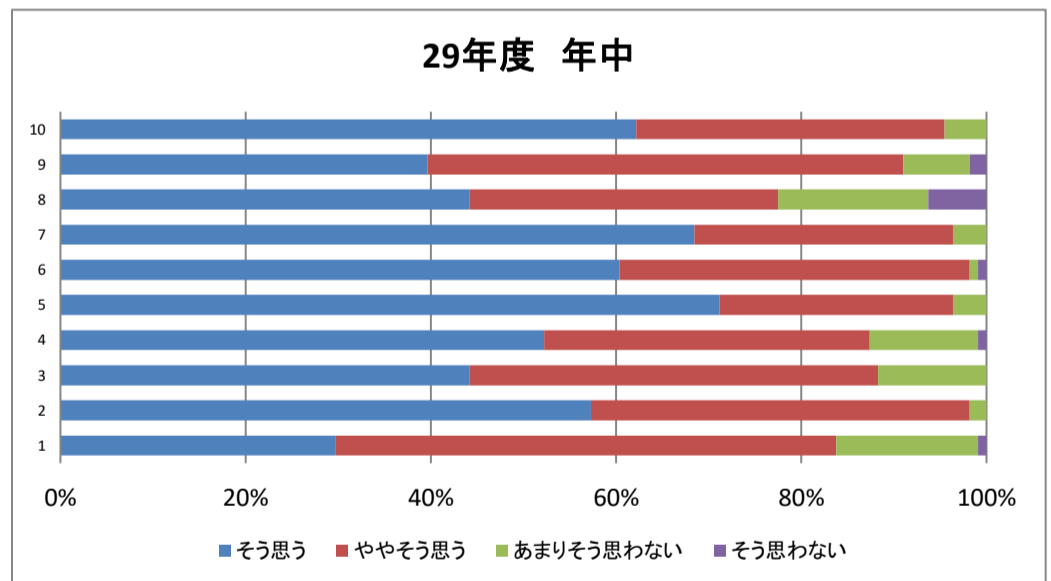
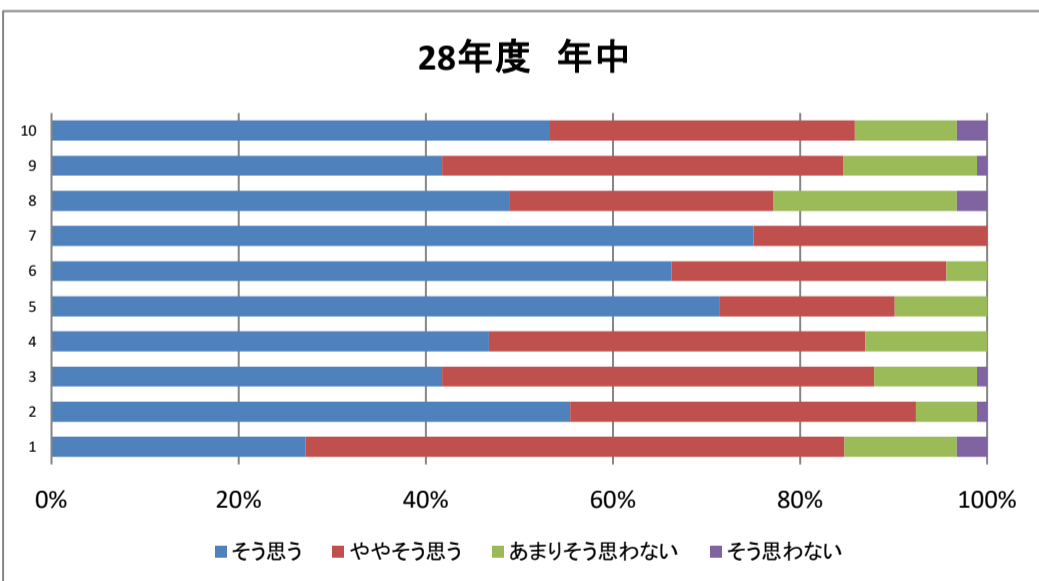
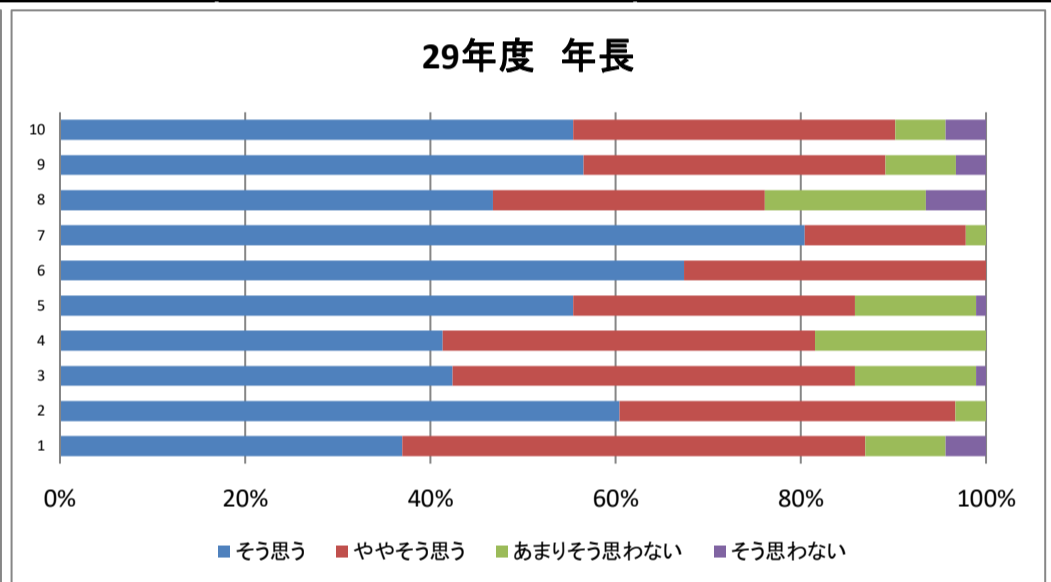
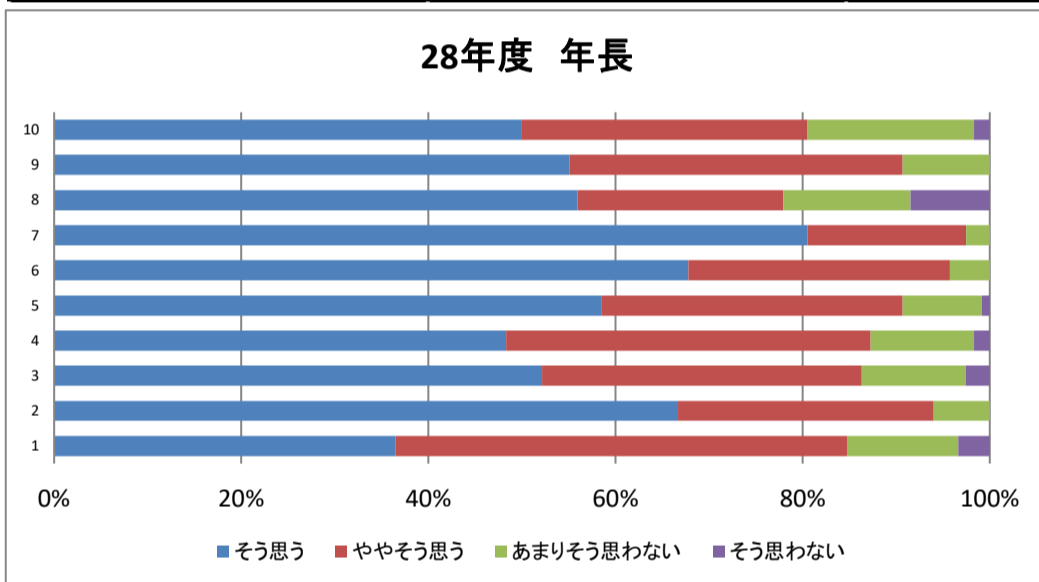
平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台国際幼稚園

V. 保護者アンケートの結果

■アンケートの集計結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5
お子さんは、誰にでも自分から挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えることができますか？(ありがとうの言葉など)	お子さんは、感受性が豊かだと感じる時がありますか？	お子さんは、話を聞く時、相手の目を見て聞くことができますか？	お子さんは、お家で進んでお手伝いをすることができますか？	お子さんは、絵本に興味を持ち、読んでもらおうという姿勢が見られますか？
質問6	質問7	質問8	質問9	質問10
お子さんは、集団生活の基本(順番を守るなど)がきちんとできていますか？	お子さんは、体育活動(跳び箱、縄跳び、鉄棒、一輪車、ボールなど)を楽しみにしていますか？	お子さんは、プール活動を楽しみにしていますか？	お子さんは、体育活動やプール活動を通じて、体が丈夫になったと思いますか？	お子さんは、英単語や英語の歌などに興味を示していますか？



■アンケート結果の考察(気付いた事・今後の課題など)

◇項目1

年少から年長への成長の過程で、恥じらいや戸惑いを感じつつ誰にでも自分から言葉に出して、挨拶し感謝する習慣が徐々に身に付きつつあると思われます。幼稚園では来客や近隣の方への挨拶の指導もしています。ご家庭でも身近な人に対してだけでなく、今後もさらにお子様の積極性を引き出せるよう共に指導の徹底をお願いしたいと思います。

◇項目2

全学年で95%を超え、お子様の感受性の豊かさを感じられているようです。大人では見過ごしたりあたりまえと感ずることも、お子様には不思議に思ったり、新たな発見であったりするのだと思います。ご家庭での日常と園生活の中で、様々なことに美しい、楽しいと感じ、興味が感じられるような機会を多くして、感性を育ていけるよう見守っていききたいと思います。

◇項目3

全体に身に付きつつあると思います。恥ずかしい等お子さんの性格差、学年差はあるものの幼稚園では相手の目を見て話す、聞く指導を今後も徹底していききたいと思います。ご家庭でも会話の際、お子さんの目を見て話し、目を見て聞く意識を持って繰り返しコミュニケーションをとって頂ければと思います。

◇項目4

幼稚園では、先生のお手伝いやお当番を通して、与えられた責任を果たすことで、やりがい、ほめられ感謝される喜びが体感できるように指導しています。家庭でもお手伝いをしてもらい機会を多くし、感謝の気持ちを十分に伝えていただくことで、人に喜んでもらい必要とされている、とお子さんが感じられる機会が増えれば、さらに積極的な行動につながるかと思えます。

◇項目5

全学年で絵本に対する興味が非常に高いと思います。ただ進級と共に興味の対象が多くなり、本に触れ合う機会の減少が懸念されます。当園子ども文庫の3千数百冊に及ぶ蔵書に触れ合う機会を今後もできるだけ多く持ち、テレビ等では得られない新たな知識や興味、そして感受性等を培って頂ければ願っています。今後もさらに蔵書内容の吟味、充実を図っていきたく考えます。

◇項目6

全学年とも非常に高い結果だと思います。集団生活の中で基本ルールを守る大切さが身に付きつつあると思います。ご家庭、園での指導の賜物かと思われます。今後の小中高、大学、社会人の基本となることなので、妥協することなく徹底していききたいと思います。その一方で、わずかではありますが、「あまり思わない」との回答に対して、ほんの少数が全体の集団生活を乱すこともあり得ますので、今後とも園でも家庭でも徹底した指導が必要と考えています。

◇項目7

全学年で96%以上と非常に高い結果が得られています。一定のルールのもと、子ども本来の活発に動き回る姿が嬉しく思います。園目標の柱の一つである体育を通しての体力づくり、一輪車や鉄棒など目標に向かって繰り返し努力し、その過程での先生との一体感、お友達との協力、そして達成する喜びを子どもたちに感じてもらえる指導を今後も実践していきます。

◇項目8

全体にプール活動を楽しみにしているとの回答です。プール活動は一年を通してあるので、寒い時期のアンケートでは若干ばらつきがあるように思われます。活動内容においては、進級の基準も明確な為、達成感が感じられるよりも自身が思うように結果が出ないことも一つの要因かと思えます。今後とも体育活動と同様にプールが楽しみになるよう、さらに挑戦意欲が継続できるように工夫していきたく考えています。

◇項目9

特に年中で約90%の高い数値が得られています。年少での実感は今一歩ですが一年を通しての実感かと思われます。成長の過程であり、3年間継続することで進級と共にきっと実感していただけると確信しています。

◇項目10

全学年で90%以上と英語に対する興味が感じられます。英語での歌や手遊び、ゲーム等を通してネイティブ英語に触れることで、発音や身近な英単語などが身に付けられと思います。昨年度より、年長組はアルファベットを書く取り組みと自分の名前もローマ字で書けるなど、英語ノートを取り入れたことで興味と自信につながったと思われます。

VI. 学校関係者の評価

園の指導目標に基づいて、様々な観点から保護者アンケートを取得していると思います。すべての項目で高評価であることから、先生方が園の教育目標に忠実に則って、子どもたちと関わっていることが伺えます。「教職員の資質向上」が「C」であり、先生方が現状に満足することなく保育力向上に努めており、意識の高さが見受けられます。また、子どもたちの心身の成長及び保護者の満足度向上につながっていると感じます。

生活習慣や思いやりの心等、いろいろな面での教育も工夫して取り入れながら、子どもたち個々の自主性や個性も見守って下さり、子どもたちものびのび育っているように感じます。運動会や発表会では、入園当初とは比べものにならないほどハキハキと言葉を発する姿から、子どもたちの成長に感動しました。先生方の教育指導のおかげであります。

園の安全管理体制について、この度の地震発生時は迅速に対応されていました。引き続き緊急時においても安全安心な行動をお願いしたいです。

以上